

新たに令和七年度が始まります。本年度も愛知県埋蔵文化財センターではさまざまな事業を計画しています。

まず、発掘調査は十五遺跡、約三万五千平方メートルを実施する予定です（下図を参照）。その調査成果はホームページやXなどで紹介したり、地元説明会などで現地の状況を公開していきます。

また、発掘調査を終えた遺跡の調査報告書を作成するため、四遺跡の整理作業を進めてまいります。

加えて、広報・普及活動を次のとおり実施し、発掘調査情報や研究情報を発信していきます。

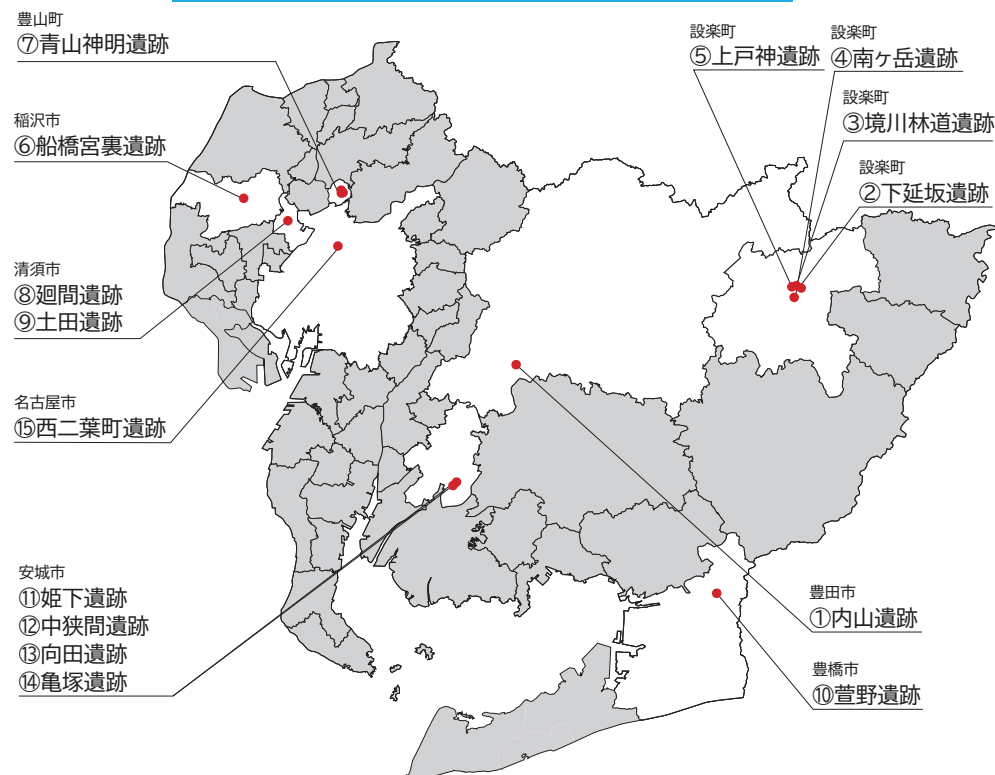
◎春の埋蔵文化財展
「やとみ新発見展二〇二五」と題して、三月二十九日から四月十一日まで弥富の埋蔵文化財調査センターの二階にて、令和六年度の発掘調査の最新成果を紹介いたします。あわせて、保存処理が終了した花の木古墳群の蛇行剣と多数の鉄製品などを展示します。蛇行剣は愛知県内では初めての出土例となります。大刀をはじめとする多数の鉄製品がまとまって出土したのも大変めずらしいことです。また、常設展示も「あいち発掘銘泉展」にリニューアルします。

◎連続歴史講座
今年のテーマは『よそおいの考古学』。四月二十四日と六月十九日は弥富市の埋蔵文化財調査センターで、秋に安城市で開催します。



西二葉町遺跡出土の狛犬

令和7年度の調査予定遺跡



埋文桜ニュース

発行日：二〇二五年三月二十九日
発行者：公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017
愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24

電話：0567-67-4163
ファックス：0567-67-3054
ホームページ：
<http://www.maibun.com>
メールアドレス：doki@maibun.com

連続歴史講座 春は弥富、秋は安城

よそおいの考古学
土器や木製品・骨角器からみえてくる「よそおい」について考えます。

2025考古学の祭典
考古学フェア
2025年11月5日(水)～25日(火)
名古屋都市センターにて開催！

あいち埋文
**サポーターズクラブ
会員募集中！**
年会費1,000円！
会員限定の遺跡見学会など！
楽しい企画がたくさん！

《同時開催》愛知県埋蔵文化財調査センター 春の特別公開 2025

収蔵庫に眠る逸品たち

～石と玉の世界～

にしまさの
西牧野遺跡（岡崎市）出土
ナイフ形石器

にしうら
西浦遺跡（豊橋市）出土
せきせいぜつ
石製舌

愛知県埋蔵文化財調査センターでは、春の特別公開 2025 として「収蔵庫に眠る逸品たち 5 ～石と玉の世界～」を開催します。愛知県内で出土した遺物のうち、今回は石と玉に焦点を当てて展示を行います。3月29日（土曜日）、30日（日曜日）の特別開館日には、車塚遺跡（岡崎市）から出土した金色のイヤリング（耳環）も展示します。

うしまき
牛牧遺跡（名古屋市守山区）出土岩偶

えぼし
烏帽子遺跡（東海市）出土
くだたま
1 管玉 2 ガラス製小玉
3 ガラス製勾玉

くるまづか
車塚遺跡（岡崎市）出土耳環

令和7年度 イベント案内

どなたでも楽しめます！

大人の方を対象としています！

3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 秋	3/29(土) から 4/11(金)	春の埋蔵文化財展『やとみ新発見展(しんはっけんでん) 2025』& 春の特別公開 ☆令和6年度の発掘調査成果について、展示解説を行います。また、特別にセレクトした逸品の遺物を特別公開します！ ☆4月は土日の開館はありません 予約不要・入場無料
11	5(水) から 25(火)	連続歴史講座『よそおいの考古学』全4回 春：弥富市で開催！ 秋：安城市で開催！「予約不要、参加費無料」 ☆「よそおい」に焦点を当て、道具のもつ役割や技術・材料の変化、社会の変化などを解説します。 ① 4月24日(木)「身分を示す木製品 ～華麗なる威儀具の世界～」 樋上 昇 ② 6月19日(木)「社会の役割が見える骨角器 ～さまざまな骨角製装身具類の世界～」 川添和暁 ③④ 期日未定 会場：安城市内 会場：愛知県埋蔵文化財調査センター 2階研修室 時間：午前10時30分から正午まで 各講座50名 秋の埋蔵文化財展 ☆イベントを開催予定 予約不要・入場無料 会場：埋蔵文化財調査センター 2階
1 ・ 3	1月下旬 から 3月上旬	企画展「あいちの発掘調査 2025」 予約不要・入館料が必要 ☆あいち朝日遺跡ミュージアムの委託事業として、令和6年度に実施された県内の発掘調査成果の速報展を開催します。 == 詳細が決定次第 HP にてお知らせします。

あいち埋文サポーターズクラブ募集のお知らせ！ ☆年会費 1,000円で考古学を楽しみましょう！

愛知県埋蔵文化財センターの発掘調査現場の見学会や、土器づくりや石器づくりなどの楽しいワークショップを企画しています。年度終了時には、サポーターズクラブ用の特別パーバークラフトとクリアファイルをお届けします。考古学にご興味をお持ちの方！ぜひご参加ください。→お申し込みはHPをご覧ください。



▲遠賀川式土器の出土状況



▲井戸



▲方形周溝墓（白線は方形周溝墓の溝）

弥生時代の中でも古い
遠賀川式土器が出土

青山神明遺跡は、西春日井郡豊山町の北部に位置しており、県営名古屋空港の西側に立地します。今回の調査では、弥生時代から江戸時代にかけての遺構および遺物が確認されました。遺構は各時代の建物跡や井戸、土坑墓、溝など、弥生時代の方形周溝墓と思われる溝も確認されています。遺物は、鎌倉時代の山茶碗と小皿を中心として、弥生時代の中でも古い遠賀川式土器の甕の口縁部も確認されました。この土器は、これまでの青山神明遺跡での出土遺物の中で最も古い約2500年前の遺物となります。

青山神明遺跡

（西春日井郡豊山町）

多気中町東遺跡は青山神明遺跡の北側に隣接した遺跡です。今回の調査では、古墳時代の溝2条、鎌倉時代から江戸時代にかけての溝7条が確認されました。古墳時代の溝2条からは、円筒埴輪や須恵器、葺石の可能性のある礫が出土したことから、円墳の一部にあたるものと思われます。

円墳の一部発見か!?

多気中町東遺跡
（小牧市多気東町）



▲中狭間遺跡の竪穴建物跡

寄島遺跡では、以前の調査で見つかっていた古墳時代の河川の跡の続きが確認されました。姫下遺跡と中狭間遺跡ではともに古墳時代から古代にかけての竪穴建物跡と土師器、須恵器、灰釉陶器等の遺物が発見されました。

青山金剛遺跡

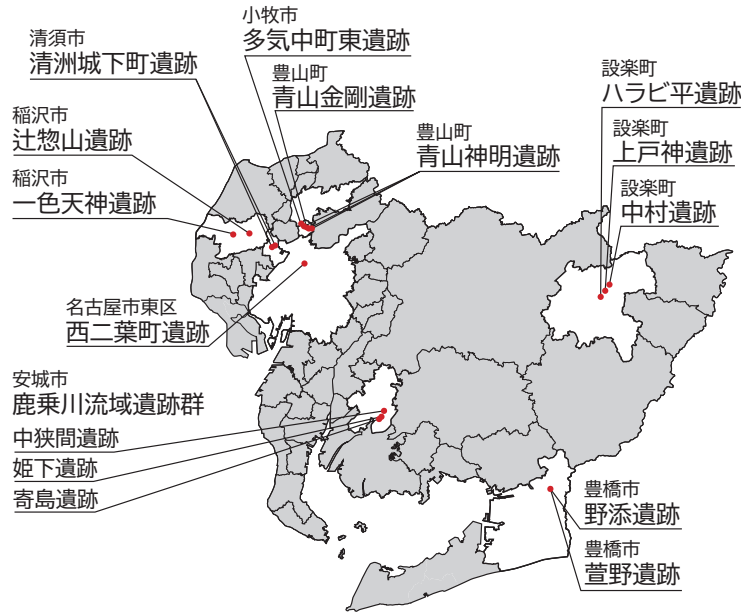
（西春日井郡豊山町）

青山金剛遺跡は青山神明遺跡と隣接した遺跡です。調査の結果、青山神明遺跡の一部調査区と同様の古代・中世集落の形成が確認されました。

古代・中世の集落跡
確認

令和六年度の
発掘調査成果概要

埋蔵文化財センターでは令和六年度に、尾張地域7遺跡、三河地域8遺跡で発掘調査を行いました。このうち13遺跡について調査成果の概要を紹介します。



周辺の弥生集落遺跡
との関係性が!?

一色天神遺跡はいなぎわ特別支援学校の敷地内に立地する遺跡です。今回の調査では、弥生時代から古墳時代にかけての土器が出土し、周辺に所在する弥生時代の集落遺跡より、少し後に集落を形成した可能性が示されました。

また、室町時代には鍛冶関連の作業場として土地利用していたことも明らかとなりました。

いろんな時代の遺物
を確認

辻惣山遺跡
（稲沢市平野町）

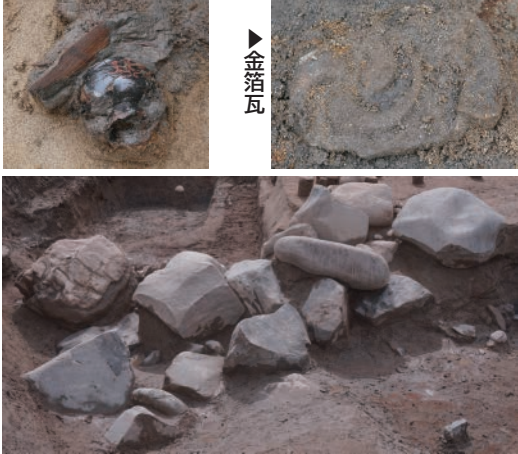
辻惣山遺跡は稲沢市内の緑風館高等学校の敷地内に立地する遺跡です。今回の調査では、弥生時代の土器、奈良時代を中心とする須恵器・土師器・瓦、平安時代から鎌倉時代にかけての山茶碗・小皿などが確認されました。

清須城の石垣発見

清洲城下町遺跡
（清須市清洲・市場）

清洲城下町遺跡は清須市中央部を流れる五条川両岸の自然堤防上の微高地とその後背湿地に広がる遺跡です。今回の調査は、清須市清洲と市場の2箇所で行い、清洲では江戸時代の井戸や溝などの宿場町として栄えた時期の町屋に関連する遺構が見つかりました。また、それらよりも古い城下町の土坑からは、金箔の付いた瓦や漆椀などの遺物が出土しました。

市場では、安土・桃山時代の石垣が発見されました。石垣は、織田信雄が城主だった頃（一五六六―一五九〇年）の「後期清須城」の石垣と考えられます。



犬山城主 成瀬隼人正中屋敷跡
を確認

西二葉町遺跡
（名古屋市中区）

西二葉町遺跡は県立明和高等学校の敷地から北東に位置する七尾天神社方面に広がる遺跡です。今回の調査では、県立明和高等学校の敷地内で行われ、古代から近代に至るまでの幅広い土地利用が確認できました。

特に、犬山城主である成瀬隼人正中屋敷に関連する遺構が広い範囲で確認されました。このほかにも、近代以降の遺構として、名古屋帝国大学学生食堂舎の基礎や愛知県第一中学校学校校舎の跡も良好に残っていました。遺物は江戸時代の遺物が多く出土し、様々な種類の陶器や土師器皿が確認されています。



▲名古屋帝国大学学生食堂舎基礎

大形土製品が出土

野添遺跡
（豊橋市石巻本町）

野添遺跡は豊川左岸の河岸段丘上に立地します。今回の調査では、昨年度の調査区から続く区画溝と屋敷地に伴う土坑墓が発見されました。

区画溝からは豊臣時代の大坂城で流通するものと同様の犬形土製品が出土し、豊橋市内では吉田城址に次いで2例目の事例となりました。

江戸時代の屋敷跡を
確認

萱野遺跡
（豊橋市石巻本町）

萱野遺跡は野添遺跡の西側に隣接する遺跡です。江戸時代の区画溝とそれに区画された大型建物と想定される掘立柱建物跡が2棟、確認されました。

区画溝からは、土師器や内耳鍋のほか、陶器や磁器、風炉や火鉢などの火具が出土しました。



▲竪穴建物跡



▲石鎌の出土状況

縄文時代の遺構と
遺物が

ハラビ平遺跡
（北設楽郡設楽町）

ハラビ平遺跡は豊川上流の左岸に所在し、北東から南西に向かって下る緩斜面に立地します。今回の調査では、縄文時代の竪穴建物跡が確認されました。

竪穴建物跡からは、縄文土器、磨石、打製石斧、石鎌のほか、黒曜石の微細な剥片が100点以上出土しました。